

**生産側・分配側QNAの今後の進め方について**

令和元年6月14日  
国民経済計算部

**(生産側QNA)**

- 前回の国民経済計算体系的整備部会において示した課題のうち、まずは、生産側QNAの課題である、「暦年値の四半期分割方法」「公表する産業別付加価値推計の精度確保」「年次推計における不突合の影響」について、集中的に検討を進め、年度内に部会に中間報告を行う。
- 生産側QNAの来年度以降の取組については、上記中間報告における部会の議論を踏まえる。

**(分配側QNA)**

- 分配側QNAについては、推計に利用できる基礎統計が限られており、生産側QNAに比べ、推計精度に大きな課題が残されている。そのため、まず今年度は推計項目ごとに、利用可能な基礎統計の検証・見直しなど、年次推計との整合性という観点から課題の洗い出しに着手する。また、可能であれば生産側QNAとの整合性を考慮し、「雇用者報酬」「固定資本減耗」を産業別に推計することが可能か、基礎統計の有無など推計方法の論点整理を行う。

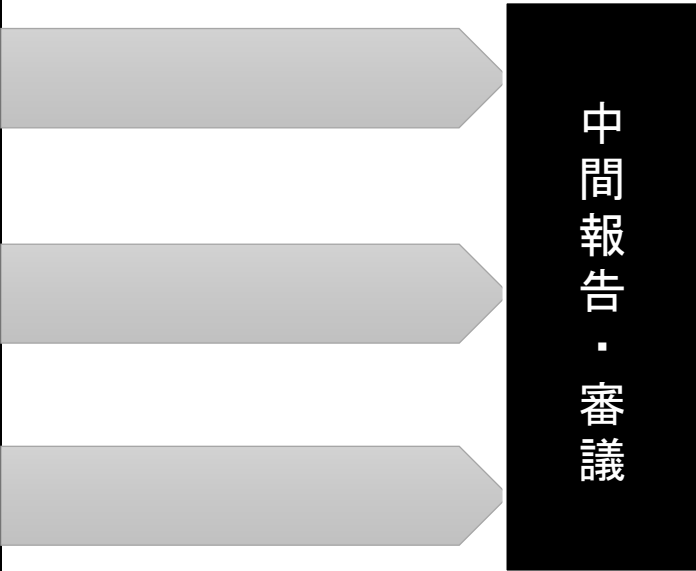
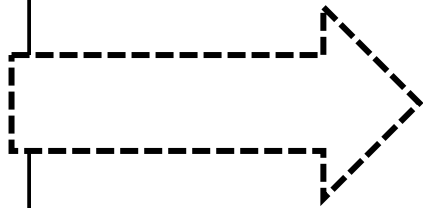
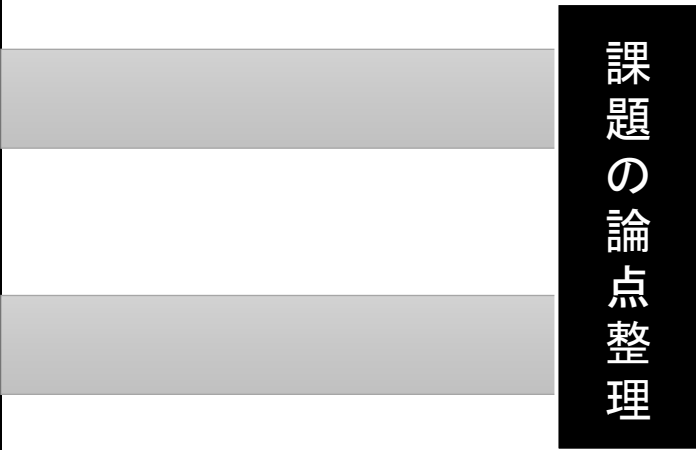
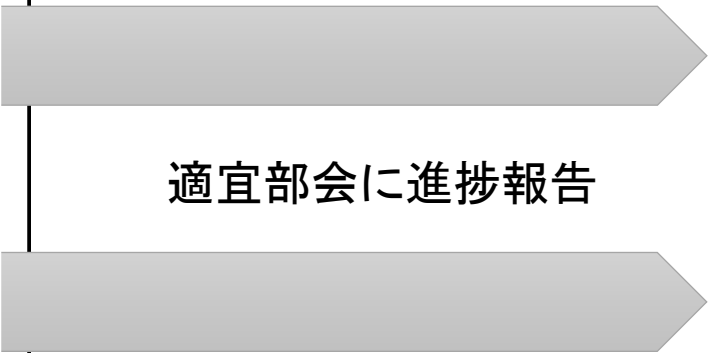
**(情報提供)**

- 部会への報告内容については、検討内容の詳細を季刊国民経済計算に掲載するなど、民間エコノミスト等の統計ユーザーや研究者にも分かりやすく情報提供していく。

(以 上)

# 生産側・分配側QNAの今後の進め方

(別添)

	2019年度 1~3月	2020年度
<b>生産側QNA</b>		
<p><b>○暦年値の四半期分割方法の検討</b> 暦年第1四半期に段差が生じないような、適切な四半期分割方法について更に検討を進める。</p> <p><b>○公表する産業別付加価値推計の精度確保</b> ユーザーニーズも踏まえつつ、一定の推計精度を確保できるよう、公表する産業分類や季節調整を行う産業レベル等について整理を行う。</p> <p><b>○年次推計における不突合の影響</b> 推計のベースとなる年次推計における「統計上の不突合」が、生産側QNAの推計に与える影響について整理を行う。</p>	 <p style="text-align: center;"><b>中間報告・審議</b></p>	 <p style="text-align: center;">部会での議論を踏まえた対応</p>
<b>分配側QNA</b>		
<p><b>○利用可能な基礎統計の検証・見直し</b> 推計項目ごとに、利用可能な基礎統計の検証・見直しなど、年次推計との整合性という観点から課題の洗い出しに着手する</p> <p><b>○「雇用者報酬」「固定資本減耗」の産業別推計等</b> 生産側QNAとの整合性を考慮し、「雇用者報酬」「固定資本減耗」を産業別に推計することが可能か、基礎統計の有無など推計方法の論点整理を行う。</p>	 <p style="text-align: center;"><b>課題の論点整理</b></p>	 <p style="text-align: center;">適宜部会に進捗報告</p>